

## 簡易湿度コントロール装置によるハウスの湿度制御と灰色かび病防除効果

雨よけハウス栽培の果菜類や花き類では、梅雨期や秋期に灰色かび病が多発し、薬剤での防除は困難である。そこで、換気扇・循環扇と送風式石油ヒーターを組合わせた簡易湿度コントロール装置を考案して、ビニールハウス内の湿度制御と結露の防止を図ったところ、殺菌剤無散布でも花き類の灰色かび病の発生が極めて少なかった。

### 簡易湿度コントロール装置

ハウス内の灰色かび病（写真右）の発生は、ハウス内の結露が原因である。そこで、夕方～翌朝にかけて本装置（図1）を稼働して、ハウス内の結露を防いだ。

本装置は、ハウス内の湿気を換気するとともに、ハウス内の温度を上昇させ、ハウス上部の結露を防ぐものである。



写真1 スターチス灰色かび病の発病

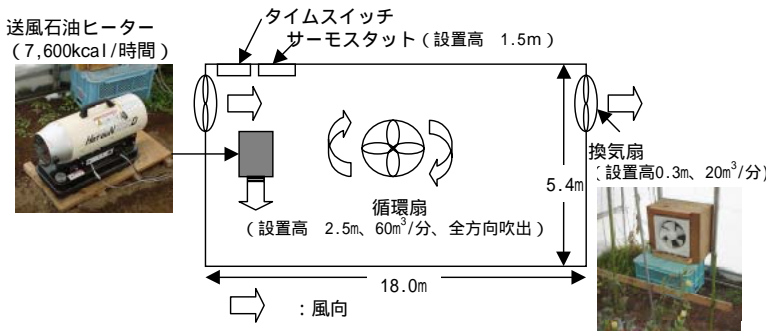


図1 ハウス内の簡易湿度コントロール装置配置図

### 防除効果

本装置の1時間稼働、2時間休止の場合、結露が少なく露滴の落下がほとんど認められなかった。そのため、灰色かび病の発病が極めて少なかった。

また、灰色かび病防除効果は、除湿機（3.5ℓ/hr）14時間稼働とほぼ同等で発病は極めて少なかった。

しかし、簡易装置を30分稼働、3時間休止の場合は、天井などに結露し、露滴が降る状態となった。そのため、灰色かび病の発病が多かった。

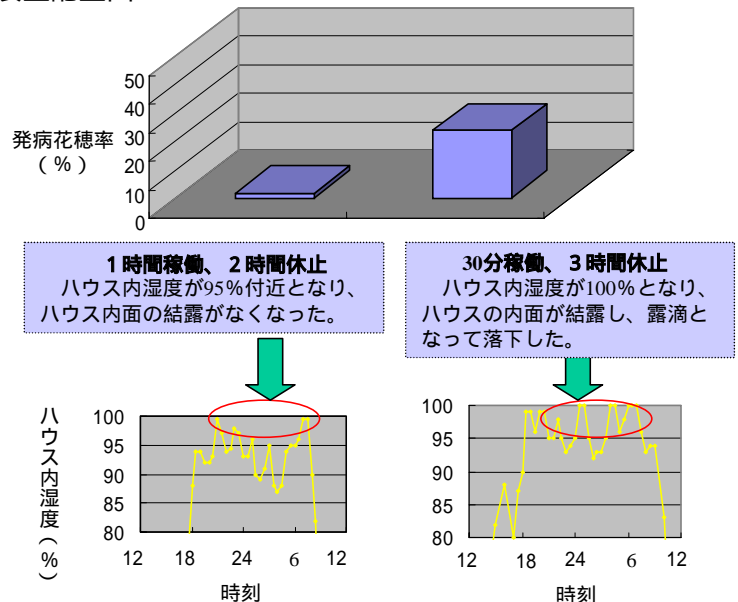


図2 簡易湿度コントロール装置の稼働時間とスターチス灰色かび病の発病程度